




審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1163 号	氏名	山口 みどり
審査担当者	主査	自見 厚郎	 (印)
	副主査	西田 和子	 (印)
	副主査	三橋 聡子	 (印)
主論文題目： Application of the COOP/WONCA charts to aged patients with chronic obstructive pulmonary disease : a comparison between Japanese and Chinese populations. (高齢 COPD 患者への COOP/WONCA charts の適用：日本人と中国人住民集団での比較)			

審査結果の要旨 (意見)

東アジアでは中国に由来する PM2.5 に代表される大気汚染物質による呼吸器障害が今後問題になると予想される。著者は住民の健康度を計る目的で COOP/WONCA chart を用いて、日中 2 か国の都市、農村の異なる地域の住民を対象に調査を実施し、検査の有用性を確認し、更に大規模な調査への応用に耐えうることが示唆された。日本人と中国人の健康観や医療保障制度の差異も検討しており、医療の国際化の時代に向かう中、中国の風下にある韓国、日本の健康度の比較など、今後の研究の進展を窺わせる豊かな内容の論文であると判定する。

論文要旨

公衆衛生学上でも重要課題となっているアジア地域の慢性閉塞性肺疾患患者と健常者の健康状態について COOP/WONCA chart を用いて、その質的差について比較検討した。COOP/WONCA chart は SF-36、呼吸器関連症状数、患者と主治医間のスコアとの相関性や test-retest で、信頼性と妥当性が確認され、日本人ではスコアに性差、加齢、COPD status の影響を受けなかったが、中国人では健常群と COPD 群でのスコア差が大きく、症状増悪に伴い変動する項目が多かった。主治医間のスコアとの相関性や test-retest で、信頼性と妥当性が確認され日本人と比較して中国人の COPD 患者では同年齢の健常者と比較して病状の増悪により健康度が著しく低下することから、患者の健康度を保持できるような医療や環境対策が必要であることが示唆された。